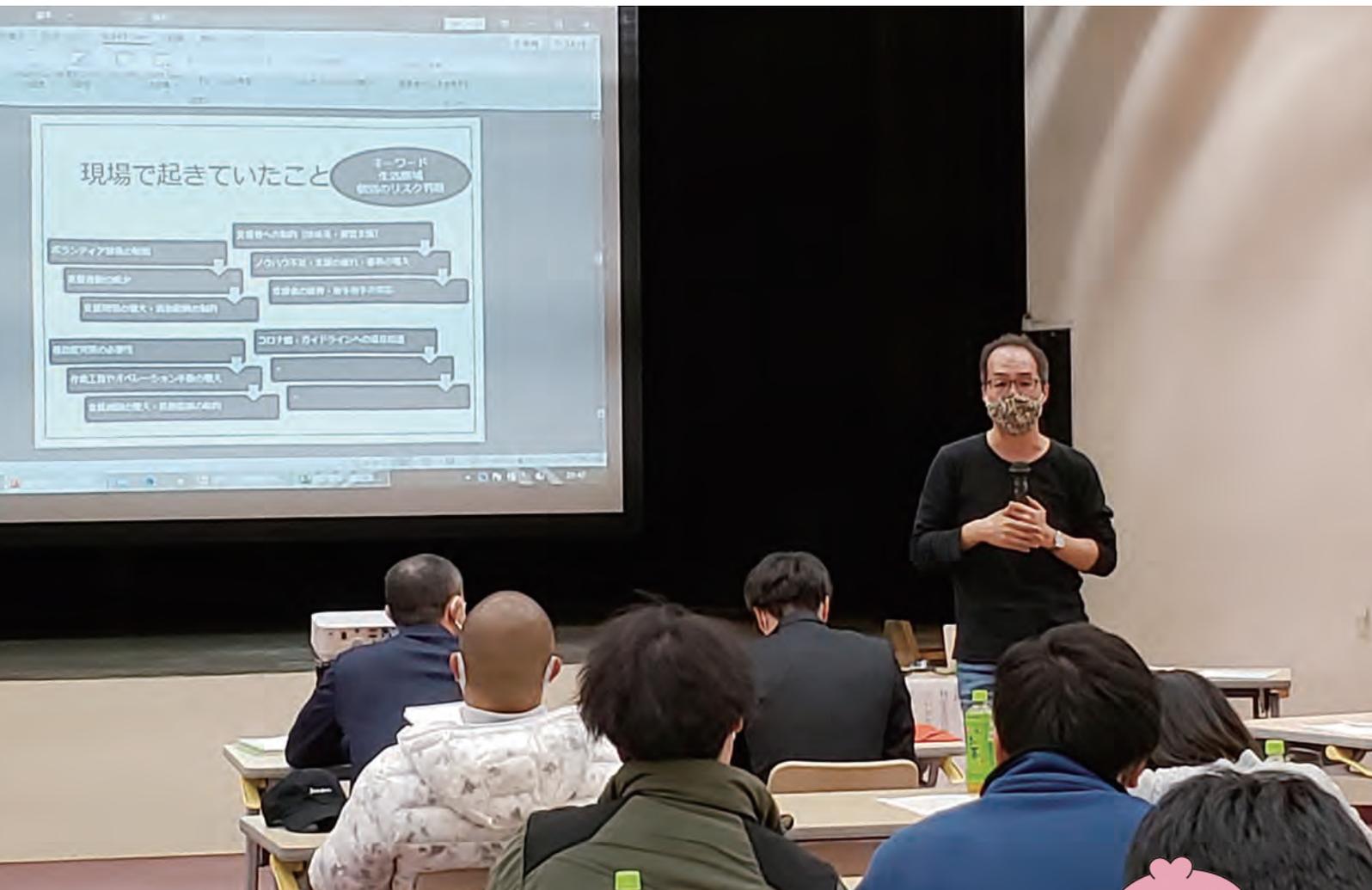


スペシャルすまいる

No. **66**
2021 **April**
NIKKO City Council of
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



令和2年12月15日に日光市災害ボランティアセンター運営に関する協定を締結している日光市・日光青年会議所・日光市社会福祉協議会の3者により、コロナ禍における災害対応力の向上や協力体制の強化を目的に研修会を開催いたしました。



日光市社会福祉協議会
イメージキャラクター「ニッキー」



この広報誌の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

CONTENTS

- 会長新年度あいさつ 2ページ
- 日光市社会福祉協議会功労者表彰 3ページ
- わたしの地域の福祉活動（栗山、湯西川、藤原、三依） 4～5ページ
- 実践者に聞いてみた
～Zoomを使った新しいつながり方～ 6～7ページ
- 会費・寄附・義援金報告 8ページ

「誰もが安心して暮らすことのできる 福祉のまちづくりを目指して」

社会福祉法人 日光市社会福祉協議会
会長 高 橋 務



日頃より日光市社会福祉協議会に対しまして、多大なるご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の観点から、本会主催のイベントや行事等の延期や中止、施設の休館や利用縮小など、市民の皆様には大変ご迷惑とご不便をおかけしているところでございます。

また、1月に開催を予定しておりました、「令和2年度日光市社会福祉協議会功労者表彰式」につきましても受賞者の健康および安全面などを考慮した結果、中止させていただきました。受賞者皆さんの長年にわたる社会福祉活動へのご尽力とその功績に深く敬意を表する次第であります。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

近年、少子高齢化・核家族化等の進展とともに、地域における人と人のつながりの希薄化が進み、既存の公的福祉サービスだけでは対応しきれない多様な生活課題が顕在化しています。

こうした中、国では「地域共生社会」の実現に向けて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで自分らしい暮らしや生きがいとともに創る支え合いのまちづくりの取組を進めています。

本会におきましても、地域住民相互の支え合いの機能の充実や地域住民との協働、更には日光市や関係機関との連携を一層強化し、「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」の実現を目指しています。

今後も、地域福祉の中核的役割を担い、真に必要とされる地域福祉活動の実践に努めて参りますので、尚一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日光市社会福祉協議会功労者表彰

日光市社会福祉協議会功労者表彰式は、本市の社会福祉の発展に功績のあった個人や団体等を表彰し、感謝の意を表することを目的に開催しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止となりましたが、以下のとおり2団体167名の方々が受賞されました。受賞者及び受賞団体をご紹介します。

受賞された皆様誠におめでとうございます。

【表彰】

社会福祉施設・団体等従事者

氏名

(順不同・敬称略)

青木 啓子 福田 淳子 木下 和子 君島 有香
 小島 恵子 濱瀬 拓 廣瀬 史子 神山富美子
 篠崎紀代子 福田 卓矢 小池 君子 茂呂 京子
 糸川 利子 佐藤かをる 野中 正彦 沼尾亜由美
 渡邊 嘉信 久保 美和 大島 和也 田中 幸子
 石崎佐智子 早川 寿子 鹿野 良子 田代美由紀
 足立 里美 吉原 志穂 加藤 若子 渡辺マリ子
 湯澤 久子 福田さおり 荒井 達也 八木澤敏勝
 松岡みどり 高島 祝子 星野由美子

【表彰】

ボランティア・団体等

氏名

(順不同・敬称略)

沼尾 博美
 ボランティアグループ 霧降はじめのいっぽ
 ボランティアグループ ひだまり

【感謝】

自治会長

氏名

(順不同・敬称略)

小野 剛司 大嶋 茂 齋藤 範夫 大南 克也
 黒川 敏勝 朝妻 隆夫 手塚 慶光 工藤 幸一
 綴喜 満男 駒場 誠一 手塚 喜正 大島 孝行
 吉田 進 江田 明 和田 一夫 塚原 正志
 湯澤 隆司 沼尾 哲 繪面 幹雄 星 善吉
 我妻 善治 青木 道夫 赤羽 文雄 中野 至
 亀田 昌智 大島 一夫 神山 忠 高橋 房男
 大橋 貢 安西 和明 芦川 隆 桑原 普
 福田 一雄 鷹簀 憲一 軽部 三郎 山崎 高志
 本間 正志 増淵 勝重 峰崎 茂房 阿部 喬
 富田 一吉 神山 順治 星野 誠 山越健一郎
 大門 陽利 渡邊 哲 船曳富士男 小栗 輝生
 青木 辰二 阿久津 哲 竹之内平通 小栗 洋一

【感謝】

民生委員・児童委員、主任児童委員

氏名

(順不同・敬称略)

武内 聡史 柴田 守雄 渡邊 克雄 吉新 一雄
 星 ゆき子 谷野 実 齋藤 康雄 池田 章子
 根本イキ子 村上 正行 渡邊 恭江 大澤 正人
 會澤 博志 福田 永吉 松崎 豊 福田 まり
 山本美佐子 森 恵美子 菅沼かづえ 平井みゆき
 大出由美子 篠原 俊之 齋藤 タツ 佐藤由弥子
 小泉 町子 西川美知子 和氣 進 星野 安子
 荻町 千春 鷹觜 文子 山口 隆二 田中 啓子
 手塚 充 加藤 勉 荒井 初美 大橋 文雄
 湯澤 勉 大嶋久美子 櫻井 茂夫 大橋 克枝
 塚原由美子 渡邊 礼子 福田唯起子 渡邊 亨
 山本 公子 沼尾 清 山田由美子 川村 誠一
 我妻 朝子 八木澤洋子 廣田 純子 長島 一夫
 荒川 崇 星野 光弘 栃木 文利 佐藤トヨ子
 永吉 利一 狐塚 栄子 高橋 貞男 福島 てる
 高橋 初枝 長谷川敏江 石島 久子 大島 公一
 湯澤 君子 八木澤忠明 阿久津文枝 星 桐雄
 八木 郁弥 吉成 啓子 大久保泰子 生方 陽子
 北村 弘 関根 一雄 對馬 秀人

【感謝】

役員・評議員

氏名

(順不同・敬称略)

中田 剛史 沼尾 哲 小野 光義 半田 博



わたしの地域

栗山地区

笑顔と花で栗山地区を彩る “花いっぱい運動”

栗山地区では、令和2年6月26日に「花いっぱい運動」の一環で、プランターへ花の寄せ植えを行いました。昨年まで使用していた土に肥料を足して混ぜ合わせて土づくりを行い、その後に花がきれいに見えるようプランターごとに彩りや種類を考えながら植えました。

花いっぱい運動に使用しているプランターは、“栗山D.I.Y.の日”という事業の中で廃材を使って住民ボランティアがーから手作りをした物です。

この寄せ植えは、栗山地区の主要道路である県道23号線沿いの様々な場所に配置し、地域住民だけでなく、栗山を訪れる人の目を楽しませています。



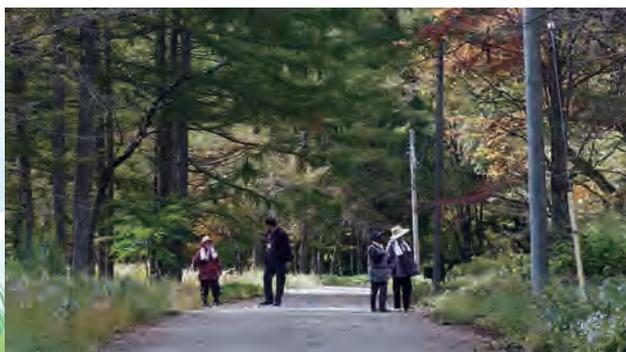
湯西川地区

元気に集まる交流の場 “湯西川に集まろう!! In 安ヶ森”

湯西川地区では、令和2年10月15日に地域住民の交流の場として“湯西川に集まろう!! In 安ヶ森”を行いました。

参加者同士楽しく話しながら、ハイキング等を行いました。今回の交流場所は、湯西川地区にある安ヶ森キャンプ場で地元の方は時期を見てキノコ狩りなどを行っている場所でもあります。この日も、道から離れて山の斜面に生えているキノコを見つけて採ったりしながら、楽しく交流できました。

コロナウイルス感染症拡大防止に伴い交流の機会が減少してしまいましたが、この日は参加者皆の笑顔と笑い声が溢れる日となりました。



福祉活動

藤原地区

にこにこ元気会

藤原地区の「にこにこ元気会」では、地域住民の交流・健康維持・生きがいづくり・社会参加・見守りを目的にサロンを実施しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、一時休止もありましたが、手指の消毒、検温、喚起をこまめにするなど感染防止対策を講じながら、活動を再開しています。

主な活動内容は、おしゃべり会や体操、食事会、講話などですが、現在は体操を中心とした活動を行っています。参加者の中からは、「体操ひとつやるにも、みんなで集まってやるのが良いよね。」といった声も聞こえてきました。

今後も、新しい生活様式に応じた集いの場となるよう、工夫を凝らしながら活動を継続していきたいと思っています。



三依地区

芹沢地区地域支え合いマップづくり

コロナ禍においても防災意識を高め、地域のつながりをなくさないように自治会の防災事業に併せて地域支え合いマップづくりを10月31日に開催しました。

2015年9月の関東・東北豪雨において甚大な被害が出た芹沢地区では、避難訓練や研修等被災を踏まえた自助、共助の取り組みを地道に進めています。

今回は、アルファ米を使用した非常食の調理体験した後、以前作成したひとり暮らしの世帯や高齢者世帯等を落とし込んだマップに現在の地域情報を反映させる作業を実施しました。

もともと高齢化の進む地域ではあるものの、水害から5年で更に高齢化と世帯減少が進んでいることがわかり、コロナ禍で外出等の自粛が要請される中でも、顔の見える関係性を維持していく重要性を改めて認識しました。



「つながるために 新しいことへの挑戦が必要！」

当初は、経験したことのない「リモート傾聴」に躊躇する会員（ありのままのメンバー）が多かったのです。パソコンを使用したことがない会員もいましたし、「やっぱり顔を合わせないとダメ」という既成概念もあつたようです。

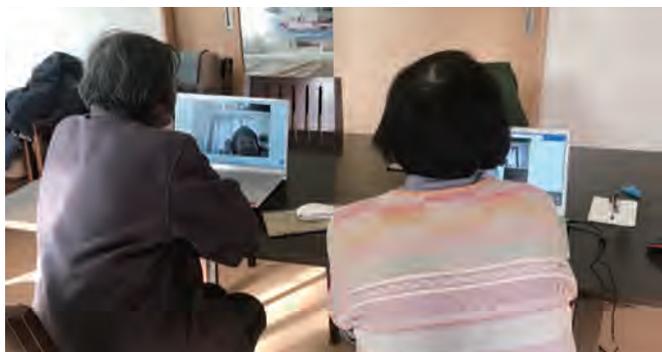
とはいえ、感染リスクを考えると従来の面談での傾聴スタイルは難しい状況です。入所者の方々とつながるためには新しい挑戦が必要だと感じました。

そこで、社会福祉協議会さんと日光市民活動支援センターさんに相談したところ、リモート傾聴を希望する施設の調整やZOOMの使用方法を教えてくれたのです。

まず会員がZOOMを体験することから始めました。画面に相手の顔や動きが見えると、喜びや楽しさを感じました。体験することで、新しいことへの不安とハードルが解消され、「やってみよう」との流れになりました。

やってみると、久しぶりにお顔を見ることができ、相手とつながっている嬉しさを実感しました。お話を聴いたり、一緒に歌を歌ったりしましたが、思っていたよりも表情が確認でき、楽しそうな様子が伝わり、私たちは、より一層嬉しくなりました。

時代に沿った「新しいつながり方」ができたんだとの実感がありました。



個人のスマートフォンを使えば、もっと簡単にできそうだと今後の展望を語る

インタビューを終えて

従来の活動が難しい中、新たな挑戦で活路を開いた「ありのまま」の活動は、先駆的であり、同じように活動に悩む方にとっては、希望の光に見えるのではないのでしょうか。支え合いの活動は、支援を求めている

方だけでなく活動者自身も幸せにします。だからこそ皆が笑顔になれるような活動を継続していただきたいと思っています。

とはいえ、何をすればよいかわからないと悩みがちです。そんな時は、社会福祉協議会にご相談ください。皆様の悩みに寄り添い、答えが出るまで、共に考え、共に実践します。

またZOOMに興味のある方がいらっしゃいましたら、市民活動支援センターにお問い合わせください。地域課題にアプローチしている団体に向けてオンラインミーティングの使い方を講座を開催しています。

私たちは、地域の身近な支援者でありたいと思っています。共に笑顔で幸せなまちをつくっていきましよう。



実践者に聞いてみた

Zoomを使った 新しいつながり方



そのような折に会員から、テレビで知ったオンライン会議システム「Zoom（ズーム）」を利用したりリモート傾聴の提案があり、実施しました。

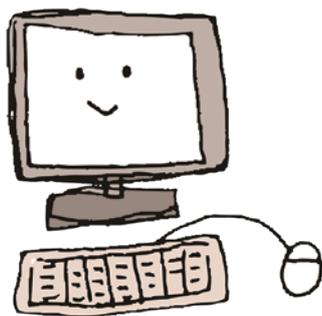
傾聴ボランティア「ありのまま」日光グループでは、個人宅・各種施設への傾聴活動を行っています。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年初めから活動を自粛していました。最初の言葉はコロナ禍になって感じたこととこのことです。

「活動ができず、すぐくストレスが溜まりました。自分たちも利用者の方に支えられていたことに改めて気づかされました。」

傾聴ボランティア「ありのまま」日光グループ 手塚会長より

今回は、手塚会長にリモート傾聴が実現するまでの経緯などをお聞きしました。その時、頂いた言葉を次ページに載せています。

コロナ禍における皆様の活動のヒントとしてお役立ただければ幸いです。





赤い羽根共同募金

実績報告



昨年10月から12月にかけて実施しました「共同募金運動」は、市民の皆様のご理解とご協力により、大きな成果を上げることができました。

お寄せいただいた浄財は、栃木県共同募金会に全額送金され、県内及び日光市内の地域福祉の向上やボランティア活動などに役立てられます。みなさまのご協力ありがとうございました。

募金総額は **16,134,327円**

ご協力ありがとうございました



内 訳

戸別募金	14,389,411円	法人募金	1,446,670円
学校募金	128,487円	一元募金	40,850円
職域募金	58,341円	その他の募金	70,568円

寄 附 報 告

〈令和2年10月1日～令和3年1月31日〉

(一般寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄 附 者 名	金額(円)
本所	吉 田 國 男	100,000
今市	社会福祉法人三光会 特別養護老人ホーム誠心園	10,000
今市	齋 藤 シ ン	10,000

(物品寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄 附 者 名	品 名
本所	町 田 正 明	チューリップ球根4箱
本所	匿 名	手作りバッグ20個 手作り帽子 15個
今市	手 塚 信 義	紙オムツ 尿取りパッド 7袋

「令和2年7月豪雨災害義援金」のお礼と報告

このたびは、「令和2年7月豪雨災害義援金」へ多くの皆さまからの温かいお気持ちをお寄せいただき、誠にありがとうございました。

日光市及び日光市社会福祉協議会では、被災された方々を支援するために令和2年7月29日から令和2年7月豪雨災害に対する義援金の募集を行って参りましたが、令和2年12月18日をもって募集を終了いたしました。

皆さまからお寄せいただきました義援金総額は164,903円となりました。

この義援金は、全額、日本赤十字社栃木県支部に送金をさせていただきました。

令和2年7月豪雨災害義援金 協力者名簿 (敬称略、順不同)

地域	名 称	金額(円)
今市	阿久津みち子	1,000

※掲載希望者のみ